

## 「まるごとにつぼん」に学ぶ「みんなのミュージアム」 ふるさとの宝物をブランド化するためには何が必要か！



1 日時：2017年4月21日（金）15:00～16:30

2 会場：まるごとにつぼん 3階たいけん広場 MMカフェ  
東京都台東区浅草二丁目6番7号（〒111-8535）電話：03-3845-0510

3 内容（カフェ形式のディスカッション）

1) 基調報告：

まるごとにつぼんの成果とこれからの課題」—1年の経験から感じたふるさとの宝物の魅力について—  
講師：まるごとにつぼん 取締役 小川 直樹

2) 施設見学

3) 地域資源交流会

4 会費：1000円（カフェと資料代）

5 問い合わせ先：日本地域資源学会事務局  
musee@jcontents@gmail.com 電話：090-9964-2192（塚原）



6 趣旨

上野公園を構想した田中芳男は、明治2年、九段の招魂神社で全国の地域資源を共有する博覧会を開催しました。それがきっかけになり、物産局（経済産業省、農林水産省）と国立科学博物館、東京博物館が誕生します。明治、大正の時代の上野公園は、全国の地域資源が集積し、新たな産業を創造する知の拠点でした。そこでは、いま私たちが目指そうとしている「みんなのミュージアム」のプログラムが実行されていたのです。

2015年12月に、日本で最初の植物園が誕生した浅草の地に、「ふるさとの宝物」を「見て・食べて・持ち帰れる」をコンセプトにした「まるごとにつぼん」が誕生し、開館して1周年を迎えました。

「まるごとにつぼん」は、「手間ひまかけた本物の逸品」や“全国の隠れた名産品”を紹介し、次世代に向けて日本の古き良き伝統や食文化、製品を後世につなげるための施設運営をめざしています。

「まるごとにつぼん」を視察し、全国から寄せられる「ふるさとの宝物」に触れてみるとともに、「みんなのミュージアム」という視点から「まるごとにつぼん」の可能性について考える研究会を開催します。今回は、ふるさとの宝物を味わいながら、カフェ形式で意見交換と交流をします。

「まるごとにつぼん」と「まちの風土記」のコラボレーション  
「額田まちの風土記」「行方まちの風土記」「瓜連まちの風土記」の展示発表会



1 日時：2017年4月21日（金）13:30～14:40

2 会場：まるごとにつぼん 3階たいけん広場

東京都台東区浅草二丁目6番7号（〒111-8535）電話：03-3845-0510

3 内容（カフェ形式のディスカッション）

1) 「まちの風土記」の展示

茨城県那珂市瓜連地区（49冊）、額田地区（30冊）、常総市（40冊）、行方市（30冊）、常総線（25冊）

2) 「まちの風土記」絵本動画のプレゼンテーション

3) まちの風土記づくりを進めるための相談会

日本地域資源学会の地域キュレータが、常総線沿線25の駅を中心に「ふるさとの宝物」を調査し、「常総線まちの風土記」24巻のライブラリーを完成させました。2015年9月に、関東東北豪雨の被害を受けたまちの文化資源、人々のあしたへ向かう元気が記録されています。昨年度開催した「常総まちの風土記」（全40巻）とあわせて、「まるごとにつぼん」でそれを展示公開します。それと同時に、現在那珂市や行方市で取り組んでいる「まちの風土記」を持ち寄り、「ふるさとの宝物」を集め、それを共有するコンテンツにするためにはどのように取り組めばいいかその相談会を開催します。

4 会費：無料

5 問い合わせ先：日本地域資源学会事務局

musee@jcontents@gmail.com 電話：090-9964-2192（塚原）

※「まちの風土記」とは

- ①「ふるさとの宝物」（地域社会の歴史、文化に加え人やコト）を記録し、物語化した50頁前後の写真を中心にした読み物です。「まちの風土記」には、ふるさとの自然が作りだした芸術作品が記録されています。時を超えた自然や景観が作りだす魅力が記録されています。いまそふるさとで暮らしている一人一人の生きるカタチが記録されています。
- ②「まちの風土記」は、日本地域資源学会が認定する地域資源学芸員（＝地域キュレータ）がまちを歩き、記録し、物語化したその土地にある夢や感動を収集したものです。
- ③「まちの風土記」を手にすることで、ふだんは見えなかったふるさとの魅力がみえてきます。そして、人々が持っている暮らしのチカラが発見できます。それらのメッセージを読み取ることができ、夢を探すためのヒントをみつけることができます。
- ④たくさんの宝物をライブラリーにした「まちの風土記」は、外に持ち出し展示できるようにデザインされています。「まちの風土記」を外に出し、駅や学校、病院などが集う場で展示することができれば、誰もが自由なスタイルで「ふるさとの宝物」を知り、楽しく学び、夢をデザインする機会を提供することが期待できます。